Copyright

日誌

自明治三十五年三月廿九日
至同
五月廿二日

23

Copyright 日本建築学会

南部北馬　天

昭和五十五年三月二十九日　出発

東洋研究、世界漫歩の理想を抱いて、今日まで、ともかく今日まで、今日まで、今日まで、

Copyright 日本建築学会

小野新御所屋敷跡まで、氏もとゞこまで吹きをとゞかりて今朝
より見物をうとて、五ツ打ちの鐘ゆゑ、後れて参詣、いと残念
なれども、ようやく間に合ひ、見物する。日暮頃より上ノ小新
家へ行、二人の舞妓、来れり。見るもの、如何ばかり、盛況なり
小野の梅ゆゑ、別格なる。今年は、梅の花、常年に倍して、
なほ、見事なり。鞍山社、法の梅、花、常年に倍して、
の親戚、和歌山、社、法の梅、花、常年に倍して、
ち、踊りて、無邪気、なる。昼過、帰宅、二合目、ゆるやかに、
一時、半ばかり、十四、五、ばかりの、一合目、昼過、しと、合せて、直ちに、丸文
を、踊りて、夕方、帰宅、一杯、呑み、昼寝、して、夜、過ごす。
酔ひ、ぬ。

三月廿一日　晴天

昨夜、夢、見て、朝、六時、発、出発、の、準備、
化粧、し、小野氏、自動車、来る、して、来る、迎、
出、ず、出、発、時、雨、降、り、出、ず、
ら、八時、出、発、の、汽車、に、乗、り、
来る、宮島、の、浦、に、着、て、
氏、来る、待ち、居る、ゆゑ、
宮、浦、に、着、て、
し、ば、し、ば、
成野氏、和歌山、出発、
青木、小倉、
天津、宮島、
大竜、彫刻、
小橋、
宮島、
仁川、新潟、
木下、青木、
宮島、
大阪、
大阪、
大阪

Copyright 日本建築学会

[illegible]

四月三日　春祝儀

[illegible]

[illegible]

四月四日

[illegible]

Copyright 日本建築学会

[illegible]

四月五日　小說

今朝も玄關の前の蓮池にて波平と尼の戰をうけるが如き思ひきつて咲き出したる蓮の花の色[illegible]

四月六日　懷術

今日も蓮池の蓮の花の色[illegible]

四月七日　無題

今日も蓮池の蓮の花の色[illegible]

Copyright 日本建築学会

四月八日　天津

今日も上陸の間遠かるべしと日中の暑さまた堪へ難き程なれども王さまい時
なれば中うて船の長き深四尺ある事帰長のまま
[illegible]
[illegible]
[illegible]

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

四月十一日　晴

Copyright 日本建築学会

四月十二日　四知

[illegible]

四月十三日　[illegible]

[illegible]

Copyright 日本建築学会

四月十四日　　[illegible]

[illegible]

四月十五日　　又[illegible]寺

[illegible]

Copyright 日本建築学会

四月十六日　御食宮

例の如く御宮殿の例にて、午三刻より自宅をスタートの者に陪
乗する者共、七時半々宅を出でて、先づ同寺路を経て
き大長殿に到着す、例の如く御宮を出でて、その四の者共を入まるつ
り長を御殿に出でて、多少面白し、故に別記せん
まるつて、由り御宮に到れまれ陪乗に来るかとて
まるつて、御林寺を見る、仰宮殿の中を参内のキン
復を要求すつて、御林寺を見る、仰宮殿の中を参内のキン
七時半にて出発して、五月雨に、三五千とうるル
相林寺の仏像、多くの的のうちより、無多の宝石を、稀
なれと大多不富者と、物まつ子の由、御所に参すべき同
つて、明主全て、御所に、雷鳴すべ、宝殿を仏
数を問すると、公儀官吏に、大多由、雷鳴すべ、
耳水全の記、先て、三年間の御門の名、先生と、仏
殿さまと、意同れも、社を全て、無数ありたり、先生を
しまうの全て止て、全て、全て、終て、試験すべ、
御所に、御、少し、覚悟、宝、うれ、鶴子あり、大四、
ち、可、月、日、数、仙、ち、ち、と、歌、と、と、紅、陰、する、鶴、野、
ル、鶴、男、子、ち、ち、と、歌、新、鶴、花、の、鶴、宝、ち、れ、せ、ち、て
ち、今、日、四、重、の、事、日、ち、整、理、し、十、四、半、て、思、ル、注
義、ル、記、し、

二年ぶりの長崎行つて、今日は、続いて、御、ち、ま
ま、し、く、御、ち、て、と、把、握、ち、ま、と、を、出、ち、し、一、つ、ま、ち、
一、日、事、を、見、へ、一、事、が、知、ち、を、以、て、足、ち、り、と、ち、う、今、を、
ま、つ、の、方、針、と、して、後、ち、の、御、手、と、雷、す、、、

Copyright 日本建築学会

四月十八日　晴雨

出雲を除き諸公参賀す。伯より今朝呼り来りて曰く、今日午刻うつの花書を届けりとのこと。今日は出発は来月に決定のことなれども、なるべく速やかに出発せんとの意なり。

[illegible]

四月十九日　曇

[illegible]

Copyright 日本建築学会

四月二十日　中島義之氏

[illegible]

四月二十一日　御堂と小島

[illegible]

四月二十二日　[illegible]

[illegible]

Copyright 日本建築学会

四月二十三日　四晴

今日は早く起き出て、ゆかねばならぬ。大雷雨降りて、時計を見れば、いつの間か二十五分ばかり過ぎて、あわてて飯に出でたる。間もなく雨止みて、やがて晴れ渡りたる。二人の子供を連れて、午後の散歩に出でたるに、二人の子供、疲れたるとて、やがて帰りたるに、二人ともに、ひどく疲れたるとて、二人ともに、ひどく疲れたるとて、今日の散歩、二人ともに、ひどく疲れたるとて、今日の散歩、二人ともに、ひどく疲れたるとて、今日の散歩

Copyright 日本建築学会

四月二十五日　宮殿

今日ハ日月ノ[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]ヲ[illegible]ル

Copyright 日本建築学会

四月二十七日（日）　晴

今日も大分朝冷える。出かけると直ちに雨になる。[illegible]

四月二十八日　曇

[illegible]

Copyright 日本建築学会

[illegible]

四月二十九日　曇　理髪

今朝[illegible]

四月三十日　晴

[illegible]

Copyright 日本建築学会

五月一日　　[illegible]

今日も西山へ行くとて大倉[illegible]出て五時半に西山の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

Copyright 日本建築学会

五月三日　壬辰　晴

今日も出山へ行くと云ふ話の大熊出發を以て早起し
申を聞て玉泉山へ行く道へ入り湖畔を
沿て進て直人と共に三回を一人の男が捕へたと云ふ
明かうを張て之を捕へしかり　如何に用ふるか　既に
の能を者共　水の為に　為して　玉泉山
しかるかこの三度を成せ　一人の男　二人の婦人　教化
中なる　婦人　教　の　文　涉　も　能　を　通　し　舌
を　用　ふ　し　又　の　と　も　を　こ　の　三　人　教　化　者　見　業
で　色　々　の　と　こ　ろ　に　三　人　で　伝　す　曰　く　今　も　良　者　が　法　を
説　く　小　見　人　の　引　き　一　を　教　法　す　し　然　に　な　る　金　で　若
聞　き　の　神　間　に　入　し　ま　ら　ん　と　し　て　跡　を　出　て　去　ら　ん　と
二　人　の　男　と　三　回　の　銀　の　武　器　の　鋼　と　れ　る　上　金　の　陽　て
五　月　と　し　て　ま　た　が　郎　で　の　ま　し　金　を　で　三　人　の　長
体　の　間　の　ま　ま　に　が　唐　周　を　見　る　と　の　地　珍　ら　く　清
泉　を　流　出　す　る　に　て　玉　泉　の　表　あ　る　ま　た　ち　る　お　全
ち　な　ま　の　泉　な　ま　ま　に　て　玉　の　ま　ま　に　水　を　流　し　て　玉　の　ま　ま　に
わ　り　間　の　社　の　す　る　仏　目　の　水　を　流　し　て　玉　の　ま　ま　に　水　を　流　し
の　飲　料　な　ま　す　て　も　大　き　く　山　の　な　ま　ち　て　小　白　堤　と　見
此　て　鶴　鳴　と　見　る　大　体　な　ま　な　ま　と　も　も　も　も　も　も　も　も
者　見　し　て　に　て　な　ま　す　る　な　ま　を　見　に　な　ま　す　し　て　な　ま　す
暗　へ　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
内　者　し　か　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
玉　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
人　の　目　人　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
く　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま

五月四日（日）　晴　暑

今日も午前中　金　と　雲　間　に　黄　し　て　後　も　宗　春　と　共
に　出　か　け　た　り　金　上　大　婚　礼　の　行　列　を　見　た　の　元　日　見　し
日　見　を　抑　し　立　て　な　ら　ん　こ　ま　ま　し　て　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
来　う　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
詩　の　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
不　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
説　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
か　て　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
金　上　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
な　な　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
な　な　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま
な　な　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま　な　ま

Copyright 日本建築学会

五月五日　晴雨

今朝早く起て気色すぐれず。然れども早朝出門して二時半に成て王へ立ち寄り、早朝宮殿を経て水氏の家に行き食を出して行けば、食の間、水氏子息まつ来り、今の宮へ、細田機と三か男長男長四郎か今日ここに来り、細田機と三か男長男長四郎と連れて入り此方へ来る。細田機と三か男長男長四郎と連れて入り此方へ来る。細田機と三か男長男長四郎と連れて入り此方へ来る。

Copyright 日本建築学会

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Copyright 日本建築学会

五月廿日　　基礎

今朝も大工棟梁と共に出て出でつと聞きまく高
松藩家の家臣の家屋敷の新築をしに候者ども来りて
くれとのことなり。仮家を山に作りもせずに出でつ
つ今を面白きまと一間半位の間に建て
ぬ。今日は山の麓に建て居る御殿の
屋根の瓦を葺き終りぬ。
明日は屋根の瓦を葺き終りぬ。
明日は屋根の瓦を葺き終りぬ。
明日は

Copyright 日本建築学会

五月十二日

[illegible]

五月十三日

[illegible]

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

五月十五日　雨和宮

今日も池者の財布の数を出して、午後のうち目和宮
[illegible]

五月十六日　雨

[illegible]

五月十七日　晴

[illegible]

Copyright 日本建築学会

雖事之後日とすれば二時まもなく快く寝ぬ。

五月十七日　料理茶

昨日の仕事はかれこれ遅延を送ることなく早朝より起き出でしかるに幸運にいまもなく出でしかるに仕事を出でしかるに仕事を出でしかるに仕事を

Copyright 日本建築学会

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Copyright 日本建築学会

五月二十一日　休憩

今朝も曇の如けれども雨は降らざりしかども、[illegible]

[illegible]

五月二十二日　[illegible]

今朝も昨夜の如く[illegible]

[illegible]

Copyright 日本建築学会

日誌

自明治三十五年三月廿九日
至同
五月廿二日

23